

三重大大学の挑戦 改革から5年



三重大学講堂

2004年4月、
三重大大学の
挑戦が始まり
ました



三重大大学のミッション

三重から世界へ：地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな
教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～

真に地域社会が求める人材を育成する

～教育目標「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の4つの力～



▲環境報告書2008

法人化に際し、高等教育創造開発センターを立ち上げ、学生サービスの充実と教育改革にいち早く取り組みました。さらに、従来型の講義に加えて、PBL*1型の授業に本学開発のeラーニングシステムを併用、4つの力の効果的な育成に力を注ぎました。学生が主体の環境ISOの活動を通じた環境教育は全国的にも評価され、また海外の大学とのダブルディグリー制度を導入するなど大学の国際化も進みました。この間、文部科学省の教育改革支援事業(教育GP)*2を8件獲得したことは、本学の教育が高く評価された結果です。



▲天津師範大学とのダブルディグリーを記念して桜の苗木を寄贈

地域を再生するイノベーションを地域と共に生み出す



産学官連携を推進する創造開発研究センターを充実、キャンパスインキュベータの創設、産学連携講座や寄附講座の拡大、数多くの市や町と連携協定締結など、地域連携や産学官連携に力を注ぎました。地域との共同研究数、とくに中小企業との共同研究数はわが国のトップクラスとなり、さらに、三重大学伊賀研究拠点、独立大学院「地域イノベーション学研究科」の創設など、新しい地域連携の試みを次々と打ち出し、名実ともに地域を再生するイノベーションを地域と共に生み出す大学となりました。

運営から経営へ

教職員の意識を、単に定められた業務を行うだけの「運営」から、環境の変化に対して自らを変革して組織の永続を図る「経営」へと変え、トップから現場までPDCA*3サイクルを回すことに取り組みました。中期目標・計画の遂行、業務改善活動による顧客満足度向上、業務の効率化、経費節減、事務組織の見直しや教職員の評価制度を導入。さらに、学長直属の監査室を創設し、業務の透明化を図り社会への説明責任を果たすとともに、国からの交付金が削減されるなかで外部資金の獲得に努力をしました。

発信力UP



広報室を創設し、住民から評価の高い「三重大学X」などの広報誌を発刊するなど、地域に対し大学の情報をさまざまなメディアを介して発信。その結果、マスコミによる報道件数も増えました。学長自らもトップセールスを心がけ、「学長ブログ」は、アクセス件数10万件を超えて、三重大学を地域の方々々に理解していただく大きな発信力となっています。

*1 PBL (problem-based learningまたはproject-based learning)
：学生が少人数で自主的に取り組む問題発見解決型教育・学習
*2 教育GP (Good Practice) : 文部科学省「優れた取り組み」の支援プログラム
*3 PDCA : Plan (計画)、Do (実施・実行)、Check (点検・評価)、Act (処置・改善)



学長、
あつという間の
5年間でしたね



第10代 三重大学長
豊田 長康
Toyoda, Nagayasu
任期：2004.4.1～2009.3.31

改革から5年

三重大学では、法人化後
様々な新しい取り組みや改革をしてきました。
その内の一部をご紹介します。

2004

- 福島健部 理事・事務局長 (財務・経営担当)
- 森野健輔 理事・副学長 (研究担当)
- 山田康彦 理事・副学長 (教育担当)
- 亀岡孝治 理事・副学長 (情報・国際交流担当)
- 豊田長康 学長
- 海軍博物館と協定締結
- 和歌山大学と包括的連携協定締結
- 「三重大X」創刊
- キャンパス・インキュベータ設立
- 事務職員向け目標チャレンジ活動スタート
- 三重大学COEプロジェクトによる研究推進
- 統一アカウントシステムの導入

2005

- 三重大学「メディカルバレープロジェクト」と協定締結
- 国際交流センター設置
- キャリア支援センター設置
- 三重大学東京オフィス開設
- 女性総合診療外来開設
- 附属病院 オーダーメイド医療部設置
- 三重県と災害対策相互協力協定締結
- 国際交流サロンオープン
- 高等教育創造開発センター設置

2006

- 三重大学振興基金創設
- 附属図書館で学術リポジトリをインターネットで発信
- 地震・津波避難訓練の実施
- 鈴鹿医療科学大学と協定締結
- 知的財産表彰制度創設
- 学内無線LANの整備 学内ネットワークのギガビット化
- 学術ポータルセンター設置
- 事務部門 チーム制導入
- がんセンター設置
- 歴史街道GIS運用開始
- 田中義三 監事

2007

- 三重大学伊賀研究拠点オープン
- 産科オープンシステム運用開始
- 附属図書館 研究開発室設置
- 三浦春政 理事・事務局長 (総務・財務担当)
- 東 晋次 理事・副学長 (企画・評価担当)
- 奥村克純 理事・副学長 (研究担当)
- タイの協定大学との間で国際インターシップを開始
- 小林英雄 理事・副学長 (情報・国際交流担当)
- FM三重で学生企画番組「CampusCUBE」開始
- 改善活動推進グループ設置
- 海外先進大学への教職員の派遣制度開始
- FM三重で「fの時間」放送開始
- 先端医療開発特区(スーパー特区)に指定
- 留学生宿舎建設
- リサーチセンター設置
- 松生安彦 監事

2008

- 三重大学 全学同窓会 設立
- 地域社会の発展に貢献
- 地域イノベーション学研究所
- 大規模災害 図上訓練実施
- 三重大学科学技術振興センター(三重県の試験研究機関等)と包括協定締結
- 三重大学伊賀研究拠点オープン
- 2009年4月3日 竣工式
- 練習船新「勢水丸」建造
- 2009年3月7日 竣工記念式典
- 松岡守 理事・副学長 (情報・国際交流)
- 鈴木宏治 理事・副学長 (研究担当)
- 野村由司彦 理事・副学長 (教育担当)
- 中川正 副学長 (教育担当)
- 加納 哲 副学長 (研究担当)
- 内田淳正 学長 (青字は、2009年4月)

2009

- 外部資金獲得 報奨制度開始
- 法人評価・訪問調査終了
- 医師確保のため 医学部定員増 100名→110名→120名
- 外部資金獲得 報奨制度開始
- 外部資金獲得 報奨制度開始

充実した教育環境

- 実践英語教育プログラムの実施 (TOEIC活用)
- eラーニング 「三重大学Moodle」を駆使したPBLの実施
- 保健管理センター拡充
- 学生なんでも相談室拡充

教育評価体制

- 修学達成度評価の実施
- 教育満足度調査実施
- 授業改善アンケート実施
- 卒業生・修了生および就職先事業所へのアンケート実施

留學生受け入れ環境整備

- 機関保証制度の導入
- 英語による国際教育科目の開講
- 三重大学留学生会設立
- 国際交流特別奨学生制度開始
- 協定大学出身の大学院生を対象とした優遇制度新設

高等学校への教育支援

- 高大連携事業に関する協定(県教委)
- スーパーサイエンスハイスクール(SSH)
- サマーセミナーの実施
- 東紀州講座の実施

主な大型研究プロジェクト

- 炎症性血管病変による神経機能障害のメカニズムの解明
- 植物系分子素材の逐次精密機能制御システム
- 伊勢湾再生研究プロジェクト
- ヤママリンの各種誘導体の分子設計と合成
- 次世代真珠養殖技術とスーパーアコヤ貝の開発・実用化
- 冠動脈粥状硬化病変に対する先進的な非侵襲MRI診断法の開発
- パールの輝きで理系女性が三重を元気に
- 三重大学「三重・伊勢湾岸エリア」新世代全固体ポリマーリチウム二次電池の開発と高度部材イノベーションへの展開
- 「特色ある優れた産学官連携活動を推進する実施機関」に採択される三重大学伊賀研究拠点の形成事業-サテライトキャンパスと地域振興-
- 地域・職域との連携による保健医療支援事業-地域・職域保健医療支援センターの設置と運用-

★主な教育プログラム

- 社会のニーズに即した人間性豊かな医師養成-地域社会を学びの場にして-
- 全学的な知的財産創出プログラムの展開
- 地域圏パイオ・メディカル創業人材の育成
- 地域と時代に応える医学・医療研究者の養成(臨床研究者養成プログラム、臨床研究地域プログラムによる実践的改革)
- 海外医学部と連携した臨床医学教育-世界に通用する臨床医学教育と国際社会で活躍する人材の育成を目指して-
- PBLチュートリアル教育の全学的展開
- 教育実践力の育成と学校・地域の活性化-中学校区全域との連携による学校・地域活性化モデル及び幼小中大学連携モデルの構築-
- 人材養成の目的を明確化した大学院教員改革-産業界や学生のニーズに応える高度専門技術者の育成-
- <医療系>国際推薦制度による留学生教育の実質化-生体侵襲ダイナミクスの国際的研究者養成-
- 三重大ブランドの環境人材養成プログラム-三重から世界へ-多様化する環境問題の改善に貢献できる環境スペシャリスト養成をめざした三重大モデルの構築と運営

三重大学 全学同窓会 設立

★詳しくは、「三重大X vol.15」参照

地域社会の発展に貢献

- 三重大学が地域に与える経済効果は、428億円
- 毎年約300件のシンポジウムやフォーラム、講座を開催

★詳しくは、「三重大X vol.11」参照

地域イノベーション学研究所

2009年4月 開設

★詳しくは、P13~14 参照

三重大学 全学同窓会 設立

★詳しくは、「三重大X vol.15」参照

地域社会の発展に貢献

- 三重大学が地域に与える経済効果は、428億円
- 毎年約300件のシンポジウムやフォーラム、講座を開催

★詳しくは、「三重大X vol.11」参照

地域イノベーション学研究所

2009年4月 開設

★詳しくは、P13~14 参照